



# 社会(歴史)の学習法

これまで創学舎ニュースで各教科の勉強法を紹介してきましたが、いよいよ最後の教科、社会の勉強法を紹介します。中学社会は「地理」「歴史」「公民」と三つの分野に分かれています。今回は苦手としている生徒が比較的多い「歴史」に絞ってお話しますね。

## 一・説明できるストーリーを作る

歴史は、大まかなストーリーをつかんでいくことが重要です。ストーリーを作るポイントは、どんな人がどんな理由で何をしたのかに着目すること、そして、その後、どんな影響があったのか等に注目することです。一例として「平安時代(院政〜平氏政権)」のストーリーを紹介しますね。

- ① 院政を行っていた父亡き後、院政を行いたい兄崇徳上皇と、そうはさせたくない弟の後白河天皇の兄弟喧嘩が勃発。
- ② 天皇は平氏と源氏の若きリーダー(平清盛と源義朝)を味方につける。
- ③ 一一五六年 **保元の乱**(○天皇側 vs 上皇側×)
- ④ 保元の乱で活躍した**平清盛**と源義朝は出世するが、義朝より清盛の方が出世する。

- ⑤ 清盛と義朝による武士頂上決戦。
- ⑥ 一一五九年 **平治の乱**(○平清盛 vs 源義朝×)
- ⑦ ライバルのいなくなった平清盛はますます活躍。
- ⑧ 日宋貿易で多くの富を築く。
- ⑨ 太政大臣にまで昇りつめる。



いかがですか。(因みに**太字**にしたのは、教科書に太字で示されている重要語句です。)このようにストーリーを作っても頭に入れば、細かなところを部分的に忘れてしまったとしても補完できます。ぜひチャレンジしてみてください。友人に説明し、理解してもらえるレベルまで持っていけたら最高です。

ここで一つ大事な点を補足しますね。

教科書を読んで自分一人でストーリーを作るのには限界があります。歴史が苦手な人はなおさらです。ストーリーを作るにあたって大事なことは、授業中の話を集中してきちんと聞くことです。教科書で太字になっている言葉だけを覚えようとす

るのではなく、それらの言葉を、ストーリー性をもってつなげるためのネタを先生の話からつかむつもりで話を聞いてください。もしうまくストーリーが作れなかったら迷わず先生に質問しましょう。これが習慣化されれば、必ず歴史は得意になります。

## 二・演習を通して別角度から知識を見つめ直す

ストーリーを作るだけでなく、並行してワーク等の問題を解いていきましょう。問題演習を通して、自分が作ったストーリーの間違い等に気づき、修正することができます。

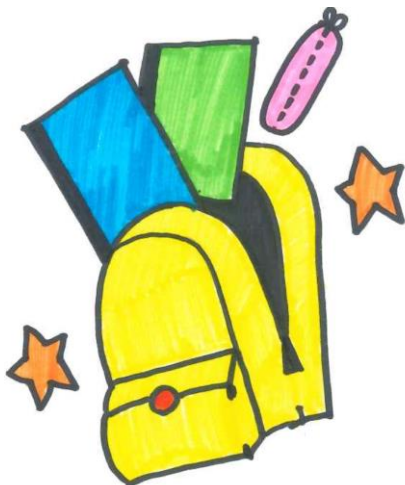
とくに記述式問題は非常に有効です。なぜなら、ストーリーのアウトプットができるうえ、歴史をいろいろな角度から聞いてくる人が多いからです。既存の知識を別の角度から再認識でき、知識がより確固たるものとなります。

今回のお話が今後の皆さんのテスト勉強や受験勉強の参考になれば幸いです。(村田)

## 初めての塾通い

私は小学校六年生のときに塾に通い始めました。当時兵庫県の住んでいて、小学生のときの習い事は、小学校一年生のときから通っている書道だけ。幼稚園も小学校も転校しているの、継続して習い事はしていませんでした。今でこそ生徒から「先生、掃除しない男子を注意していたタイプですよ。ね。」と言われる私ですが、当時は全然そんなことはなく、おとなしい目立たないタイプの生徒でした。何をしていたか覚えていないほど、ぼーっと

した小学生時代を過ごしていました。さて、そんな私が塾通いを始めたのは、勉強を教えてくれる父親とのけんかがきっかけです。当時の私は学校の宿題で算数のワークの文章題だけやらず、見かねた父とケンカしながらやり始めるという日々を送っていました。そうして、つまずくたびにイライラして、またケンカを再開するという具合。せっかく父が解説してくれるのも聞いているのか聞いていないのかわからない態度で聞く始末。計算スピードも遅かったため、両親は算数の心配を募らせていきました。加えて、中学校の準備として始めた英語の通信教育を、ためにため始めたことで、ついに父の堪袋の緒が切れて、入塾することになりました。



さて、その塾には、同じ学校の子がいませんでした。さらに、男子しかいないことがわかりました。両親は「勉強しに行くのだから、おしゃべりする必要ないでしょう。」と書いていました。けれども、私は「まあ、そうなんだけど。でも、なんか、一人って寂しい!」と思いつつ、小学校六年生の一年間、淡々と通っていました。ある日、塾の面談で「宿題はしっかりやってくるし、授業態度も問題ないんですが、全然笑わないんですよ

ね。実は、塾をいやがっていませんか。」と先生から言われたらしく、母親に「そうなの？」と聞かれました。話さないから話しかけられても、おとなしく返事するくらいしかできず、かといって、いつもの自分をさらけ出す勇氣もなく、結果愛想が悪かったようです。私は「特に笑うタイミングがないから、とりあえず真顔でいる。」と答えました。

その後、中学生になると、女の子が入塾して、同じクラスの男の子とも話せるようになり、以前よりも柔らかい表情で塾に通えるようになりました。

このような経験から、子供たちが体験で塾に来た時や入塾した初日の緊張感は、とてもよくわかります。ちゃんとなじめるかな、変なこととして浮いたりしないかな、子どもながらにいろいろなことが心配なはず。だから、そんな不安を抱えながら創学舎に来てくれたみなさんのことを心から応援したいと思います。そうして、創学舎を楽しみながら一つ一つできることが増えていく場所にしていききたいなと思います。(富田)

### 継続する(こと)

私はマラソンや駅伝を見るのが好きです。正月に箱根駅伝がありました。駒澤大学一強と言われていたところ、青山学院大学が優勝しました。その展開を見るのが楽しいのですが、人によっては一時間、二時間とただ走っているだけのものを見るのは苦痛だろうと思います。楽しむコツは、そこに至るまでの過程を想像することだと思えます。

箱根駅伝を目指す大学は、インカレなどの各競技会、出雲駅伝、全日本大学駅伝などを経て箱根駅伝を迎えます。しかし、いつもいい成績ばかり取っているわけではないのです。長期にわたる低迷にあえぐ学校もあれば、勝ちを重ねたために優勝へのプレッシャーが強いのしかかりコンディションを崩す学校もあります。一人ひとりの選手も様々なドラマを背負って走っています。



マラソンや駅伝は、よく受験勉強の比喻に用いられます。期限の決まっていることに向かって根強く取り組む、ということでは同じだからです。

受験に向けて一生懸命頑張っても結果が出ないときもあります。勉強していても常に成績が上がるわけではありません。本人の体調が悪い時もあるし、精神的に疲れている時もあるでしょう。だからといってその都度一喜一憂している場合ではなく、やるべきことをただやり続ける、このことこそ最も大事なことになります。とは言っても誰もが落ち込むときもあるし、喜ぶこともあります。なかなか自分自身だけでコントロールするのは難しいことです。

そこで私たちがいるのです。私たち創学舎の講師がしていることは授業だけではありません。その時その時の生徒の状態を把握し、適切なアドバイス、勇気づけ、叱咤激励等さまざまな声掛けを

行い、生徒の状態を少しでも前向きにしています。それでも生徒自身が前向きになれないときには辛抱強く待ちます。

私自身はもともと道具を使うスポーツや、瞬発力を要するスポーツは苦手で、ただ長い距離を走る、ただ泳ぐなどは平均よりはできたと思います。勉強も同じで、器用に何でもパッと出来るようなタイプではなく、どちらかというと、ただひたすら長い時間やり続けることのほうが合っていたようです。

生徒たちの中には、継続に倦み、一時の辛さから解放されたくて安逸な方へ流れる者も出てきます。そんな子たちに、私は受験のときをいい状態で迎えられるように考えて対応します。時にはその生徒の将来、つまり、高校卒業後のことを踏まえて対応します。日々目立たない日常の中で、何気ないことでも、先のことまで考えて対応するようになっています。

このように受験勉強は、長い間練習を継続し、時には悔しい結果が出て練習を継続し、待ち望んだ舞台で結果を出す、そんなマラソン、駅伝などに通じるものがあると思います。

最後にある卒業生の話です。中三の夏を過ぎても成績が伸びず、どんどん落ちていく状態の中、ちょっとした補習を続けて受けていくと、少しずつ状態が上向きになり、チャレンジ校にあたる私立高校に合格し、第一志望の公立高校にも見事に合格して卒業していきました。このように、ちょっとしたことで継続することで状況が大きく好転し、いい結果が出る場合があります。継続することは、それほど大きな意味をもつ、このことを、多くの皆さんにお伝えできればと思っています。(岡本)

### 新中1準備講座 3月スタートコース開講!

～数学と英語の中学内容先取り授業です～

新課程での英語教科書は単語数も増え、表現も難化しています。それに伴い、1年生の1学期の定期テストでも多様な問題が出題され、以前のような高得点は取りにくくなっています。そこで、創学舎では中学準備講座を1月から早めにスタートして、じっくり3か月かけて、習熟するよう学習を進めております。

今回、習い事やクラブチーム、中学受験などの関係で、これから準備を始めようというお子様のために、3月スタートのコースを開講いたします。3月授業と春期講習で、新中1の英語 (be 動詞と一般動詞) と数学 (正負の数) を扱います。まずはお電話で各教室にお問い合わせください。

### 現小学6年生対象「割合」補習講座 3月実施

45分×2コマ 受講料: 1,100円 (教材費込み)

「割合」単元は、算数最大の難所の一つで、抽象的な概念把握が必要となるため、苦手とするお子さんが多いところです。

中学校では、正負の計算の学習後すぐに「文字式」「方程式」が必要になります。また、「割合」の理解が不十分のままでは、物理の「圧力」、化学の「定比例の法則」、地学の「湿度」など、理科の計算でも苦労することになります。

本講座では、小学校の「割合」に苦手意識がある現小6生を対象に、割合概念の解説から基本問題の演習までを行います。詳細は、各教室の別紙講座案内をご覧ください。